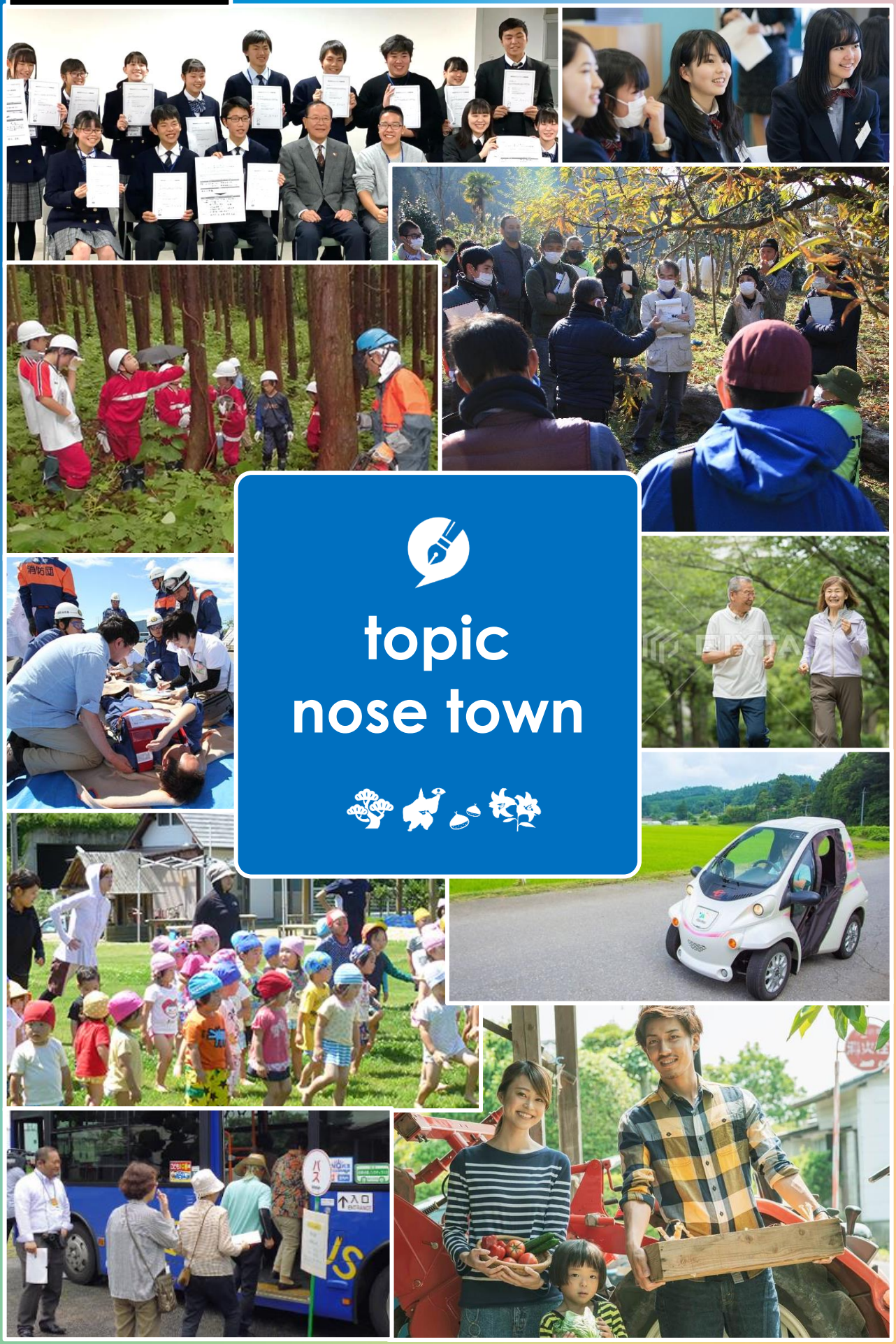
資料 2

ダミー写真（里山以外）



はじめに

この総合計画を立案に向けて、審議会メンバーは審議会の他に、農業や教育関係者へのヒアリングを実施し、町民の生の声を聞いてきました。
ネガティブな予測がある一方で、ポジティブな話もたくさん出ており、その矛盾点をどうするのか。テーマ別の解をすべて求めるのでなく、課題を住民と共有することで、上位計画としての位置づけをするのがよいと考えました。

また、町の多様な情報が発信できていない。インターネットが発達し、行かなくても手軽に取り寄せできる世の中、知ってもらう機会がないといけない。また情報発信の場がどこにあるのか公になっていと感じました。

最初にいろいろな人が登場する課題の特集ページを載せ、計画策定の根拠や課題を、初めて読んだ方でもわかるような基本計画としたいと考えこのページを作成しました。

・・・ 審議会委員からひとこと ・・・

このグラビアページを見て、町に住んでいる人、関わっている人が自由に発想して動いてよいというメッセージになってほしい。

氏名□□ □□

□□□

氏名□□ □□

□□□

氏名□□ □□

・・・ 地域の方からひとこと ・・・

□□□

氏名□□ □□

□□□

氏名□□ □□

□□□

氏名□□ □□

新しい地域社会の創り手を はぐくむ能勢分校

卒業後も若者と町の「つながり」をつくる

大阪府立豊中高等学校能勢分校は、連携型中高一貫教育、海外交流、環境教育の様々な取り組みが評価され、ユネスコスクールや、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の事業特例校に指定されています。2020 年度から活動を始めた「地域魅力化クラブ」では、地域のためにできることを高校生が自ら考え活動しています。（⇒e バイク）このように、まちの未来を真剣に考える若者が集う「能勢分校」は新しい地域社会の創り手をはぐくむ「まちの宝」なのです。

しかし、能勢分校の生徒へのアンケート調査では卒業後、「能勢町に居住して就職したいか」という質問に「思わない」とする意見が 45%ありました。
さらに、能勢分校の取り組みは新聞やテレビと各種メディアに取り上げられていますが、町民や府民に広く知られていない状況です。

そこで、能勢町では、小中高一貫教育や小規模校の特性をいかして地域と一体になった多様な学びの環境を提供し、まちの将来を支えるグローカルな意識をもった担い手を育んでいきます。
また卒業後も若者と町が継続的につながる仕組みづくりにも取り組みます。
さらに能勢分校の良さをもっと町民や府民に伝わる取り組みを行います。

・・・ ひとこと ・・・

高校生の声を聞いて、一度外に出てみたいという気持ちを否定することはできない。やはり能勢がよいと思って帰ってきて、能勢のまちづくりを引っ張ってくれる人がいればよいと思う。

氏名□□ □□

□□

氏名□□ □□

□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	●
	教育環境の充実	●
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	●
	関係人口の創出と移住・定住の促進	
	能勢魅力の継承と創造	
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	●
	地域医療体制の充実	
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	健康寿命の延伸	
	生涯活躍できる社会の実現	●
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	

地域経済のリデザイン	“おおさかのてっぺん”広報プロモーションの推進	●
	観光地域づくりの推進	
	農業・農村資源の高付加価値化	
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	●
	道路・交通環境の整備	
	新しい交通システムへの挑戦	
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	●
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	
	里山資源の魅力化	
	森林資源の保全と活用	
	ゼロカーボンタウンの実現	
	災害に対する復元力・回復力の向上	
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	
	情報通信技術の利活用の研究	●
	自立した地域づくりの推進	

小さな百姓を育てる

様々な「技」を伝え里山の担い手をつくる

能勢町には、子供たちが見分け方を習う栗の名品「銀寄栗」、茶の湯で 500 年以上も評価されている「能勢菊炭」など、豊かな自然を生かした特産品がたくさんあります。

人口構成は、2045 年に高齢者人口比率が 7 割となり生産年齢人口は現在の 4 分の 1 に減少すると予測されています。高齢化による農家人口が減少し、林産物の需要の低下により管理されず放置された里山が増加しています。またニホンジカによる食害は、栗栽培は生活環境にも深刻な悪影響を及ぼしています。

地域団体では、様々な「里山の技」を習得し、本業・副業・暮らしへとその学び活かしていくために「栗の接木剪定講座」や能勢地域の人々の技を生かした里山技塾を開催し、里山の担い手づくりを進めています。
さらに、地元の農家後継者や新たな就農者が集まり能勢青年農業者 4H クラブが 30 年ぶりに復活するなど、様々な形で、小さな百姓が育っています。

・・・ ひとこと ・・・

農家といえば専業農家を指すことが多いが、兼業や援農といった副業的農業を暮らしに取り入れる「小さな百姓」も貴重な担い手。ていねいに育て、多種多様な「農家」が集まる町にしたい。

里山技塾関係者

皆が辞めていく農業だが、都市近郊型農業に大きな魅力と可能性を感じている。
将来は農家レストランを開業することが夢。多様な生命を紡ぐ農業の世界。農家の仕事を通じて人と自然、人と人、地域と地域のつながりを育むことが、次の世代のバトンへと少しでもつながっていれば嬉しい。

農業関係者

□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	
	教育環境の充実	
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	
	関係人口の創出と移住・定住の促進	
	能勢魅力の継承と創造	●
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	
	地域医療体制の充実	
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	健康寿命の延伸	
	生涯活躍できる社会の実現	
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	

地域経済のリデザイン	"おおさかのてっぺん"広報プロモーションの推進	
	観光地域づくりの推進	●
	農業・農村資源の高付加価値化	●
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	●
	道路・交通環境の整備	
	新しい交通システムへの挑戦	
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	●
	里山資源の魅力化	●
	森林資源の保全と活用	●
	ゼロカーボンタウンの実現	
	災害に対する復元力・回復力の向上	
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	
	情報通信技術の利活用の研究	
	自立した地域づくりの推進	●

自分らしい生き方をみつける

子育てや就業環境を整え町の魅力を発信

能勢町の豊かな自然環境や顔の見えるコミュニティは子育ての魅力の一つといえます。町外から幼稚園に通われている方も多く、移住される方が増えれば、町の賑わいも期待できます。また町での生活が子供たちの人間形成の原点になることはうれしいことです。

しかし、1998 年から町から外へ引越しする人（転出数）が町へ引越してくる人（転入数）を上回っています。町民アンケート調査では、「町の暮らしやすさ」について、「ふつう」と回答が 34.4%、「暮らしづらい」「どちらかと言えば暮らしづらい」と回答が 39.3%ありました。

「里山未来都市」は新しい概念です。都市の一般的なイメージとは異なるが、環境、健康、エネルギー、食などが基軸になる自立循環型の新しい都市像です。価値観が多様化する中、地方で自分らしい暮らし方や働き方を探す方も増えています。能勢町では移住相談窓口を設置していますが、令和3（2020）年度の相談件数は 64 件で前年度の約3倍になっています。地域住民と移住者、さらにはまちづくりに関わる関係人口が連携・交流することで多様で新しい町の活力が生まれます。居場所を提供できる環境づくりや町の情報発信に取り組んでいきます。

… ひとこと …

能勢が好きだが就労の関係で能勢に住めない人も多い。

□□□□□

住まいを確保するまでの難しさはあるが、自ら地域に飛び込んでいけば受け入れてくれる。
何事にも自分から自発的に取り組める人、そういう人にとって能勢は可能性のかたまりではないでしょうか。

農業関係者

□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	
	教育環境の充実	
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	
	関係人口の創出と移住・定住の促進	●
	能勢魅力の継承と創造	●
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	●
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	
	地域医療体制の充実	
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	健康寿命の延伸	
	生涯活躍できる社会の実現	
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	●

地域経済のリデザイン	“おおさかのてっぺん”広報プロモーションの推進	●
	観光地域づくりの推進	
	農業・農村資源の高付加価値化	●
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	
	道路・交通環境の整備	
	新しい交通システムへの挑戦	
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	●
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	
	里山資源の魅力化	
	森林資源の保全と活用	
	ゼロカーボンタウンの実現	
	災害に対する復元力・回復力の向上	
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	●
	情報通信技術の利活用の研究	
	自立した地域づくりの推進	

人にやさしい町に

福祉や災害、感染症対策等をさらに充実化

WHO 憲章では健康の定義として「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」とされています。

コロナ禍において社会経済活動が制限される中、人と人、社会とのつながりの大切さが改めて求められています。また、感染症対策や薬剤耐性対策において、ワンヘルス・アプローチ(※)が提唱されるなど、生物多様性と人の健康のつながりについて関心が高まっています。

こうした中で、「いきいき百歳体操」には延べ 1,000 人以上が参加するなど高齢者の地域づくり活動への参加による生きがいづくり、社会参加も進んでいます。

能勢町では『能勢町健康長寿事業(のせけん)』に取り組んでいます。『のせけん』とは、ご家庭で血圧を習慣的に測定・記録することで認知症や脳卒中などの 病気を予防して健康寿命を延ばす取り組みです。のせけんは、能勢町が、大阪大学医学系研究科・オム ロンヘルスケア社と共同で行う世界的な研究でもあり、住民の皆さまの健康の向上をサポートします。さらに地域包括ケアシステムの深化や災害や感染症対策に係る体制整備などの充実化に取り組んでいきます。

※厚労省 HP:動物から人へ、人から動物へ伝播可能な感染症(人獣共通感染症)は、全ての感染症のうち約半数を占めており、医師及び獣医師は活動現場で人獣共通感染症に接触するリスクを有しています。こうした分野横断的な課題に対し、人、動物、環境の衛生に関わる者が連携して取り組むOne Health(ワンヘルス)という考え方が世界的に広がってきており、厚生労働省も、One Health の考え方を広く普及・啓発するとともに、分野間の連携を推進しています。

・・・ ひとこと ・・・

しっかりとした地域医療基盤や介護・福祉も充実し、全国に先行して地域包括ケアシステムも完成し、全国的にもとてもよい環境である。

氏名□□ □□

□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	
	教育環境の充実	
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	
	関係人口の創出と移住・定住の促進	
	能勢魅力の継承と創造	
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	
	地域医療体制の充実	●
	高齢者福祉の充実	●
	障がい者福祉の充実	●
	健康寿命の延伸	●
	生涯活躍できる社会の実現	
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	

地域経済のリデザイン	“おおさかのてっぺん”広報プロモーションの推進	
	観光地域づくりの推進	
	農業・農村資源の高付加価値化	
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	
	道路・交通環境の整備	
	新しい交通システムへの挑戦	
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	
	里山資源の魅力化	
	森林資源の保全と活用	
	ゼロカーボンタウンの実現	
	災害に対する復元力・回復力の向上	●
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	
	情報通信技術の利活用の研究	
	自立した地域づくりの推進	

ゼロカーボンタウン

能勢町の豊かな自然を適切に管理し活かす

能勢町では公共施設に使用する電力を2030 年までに全て地域資源由来の再生可能エネルギーに転換し、2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロを目指します。

町域の 98.75km2 のうち約 8 割が山林です。適切な管理することで二酸化炭素の吸収が期待できる有益な森林資源を有しています。
またグリーンインフラ（山林・農的資源）や地域エネルギーを賢く利用していくことが、持続可能な社会を形成するために必要不可欠です。グリーンツーリズムなど森林資源の活用した交流機会や、取組に関する情報発信も増やしていかなければなりません。

2021 年 5 月に「SDGs未来都市」に選定されました。「株式会社能勢・豊能まちづくり」により再生エネルギー比率の高い電力を公共施設に順次調達し、能勢町温暖化対策推進計画によりゼロカーボンタウンへの挑戦を始めています。
また、公用車等の電動化を進め、利用しない時間帯には、地域住民に貸出すなど、試乗機会を提供します。
さらに、能勢町の農林業と豊かな生物多様性はお互いに関係していて、森林資源を適切に管理していくことは大きな意義と価値があります。

・・・ ひとこと ・・・

この森林は大阪、もっと言えば地球に貢献している。貢献が評価されないことが手がつかない原因になっている。

氏名□□ □□

かつて、『山作業は地球防衛のようなこと』と教わった。やはり森がなくなる自然の循環が止まってしまうので、森は守っていかないといけない。

氏名□□ □□

□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	
	教育環境の充実	
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	
	関係人口の創出と移住・定住の促進	
	能勢魅力の継承と創造	
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	
	地域医療体制の充実	
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	健康寿命の延伸	
	生涯活躍できる社会の実現	
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	

地域経済のリデザイン	“おおさかのてっぺん”広報プロモーションの推進	
	観光地域づくりの推進	
	農業・農村資源の高付加価値化	
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	●
	道路・交通環境の整備	
	新しい交通システムへの挑戦	
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	●
	里山資源の魅力化	●
	森林資源の保全と活用	●
	ゼロカーボンタウンの実現	●
	災害に対する復元力・回復力の向上	
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	
	情報通信技術の利活用の研究	●

いつまでも安心できる暮らしと まちづくりを支える公共交通

誰もが移動に困らない交通システムの確立

能勢町は、京都、兵庫、大阪の三つ地域に囲まれ、各方面にアクセスしやすい位置にあります。能勢町の自動車保有車両総数は 9871 台で 1 世帯あたりの台数は 2.7 台であり、近隣市町よりも高くなっており、自家用車が各世帯の重要な交通手段となっています。

一方で、中山間地にある能勢分校への通学については課題があります。公共交通が限られる中で、能勢分校生には自転車通学も多く、夜間走行、自動車とのすれ違い、野生動物との遭遇など多くの課題を抱えています。能勢分校の「地域魅力化クラブ」部員が中心となり、教育、交通を専門とする全国の大学の先生方と共に、これらの問題を解決する研究プロジェクトが始まりました。通学困難生徒へ「e-bike（電動アシスト付スポーツバイク）」の貸出しなどに取り組んでいます。

町内には鉄道駅がなく公共交通手段が限定される中で、能勢分校以外の高校生も、遅いと帰りのバスが終了し、日曜日の通学にも送迎などが必要になっています。このように、高齢者や若者世代の移動手段の確保が必要です。

2020 年に能勢町地域公共交通会議の設立し、地域の実情に即した持続可能な交通システムの確立を目指しています。また、それらの交通を支える町道の維持管理についても推進していきます。

・・・ ひとこと ・・・

路線バス減便の一番の原因は、乗ってもらえないことである。みんなで乗ってバスを残そう！

氏名□□ □□

□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

氏名□□ □□

【関連する基本計画の施策テーマ】

人材育成・サイクル	シビックプライドを醸成する教育の実施	
	教育環境の充実	
	高等学校との連携など協働的な学びの実現	●
	関係人口の創出と移住・定住の促進	
	能勢魅力の継承と創造	
ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）	安心して子育てができる切れ目のない支援	
	社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり	
	地域医療体制の充実	
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	健康寿命の延伸	
	生涯活躍できる社会の実現	
	人権・平和の尊重	
	魅力的な集落生活圏の形成	

地域経済のリデザイン	“おおさかのてっぺん”広報プロモーションの推進	
	観光地域づくりの推進	
	農業・農村資源の高付加価値化	
	産業の活性化と地域発イノベーションの推進	
	道路・交通環境の整備	●
	新しい交通システムへの挑戦	●
	時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用	
脱炭素化・レジリエンス	生物多様性の保全	
	里山資源の魅力化	
	森林資源の保全と活用	
	ゼロカーボンタウンの実現	●
	災害に対する復元力・回復力の向上	
自治体経営における資源配分の効率化	遊休資産・公共施設の有効活用	
	情報通信技術の利活用の研究	●